

株主の皆様へ

第55期 報 告 書

平成30年4月1日～平成31年3月31日



称名滝

立山黒部貫光株式会社



株主の皆様へ

代表取締役社長 見 角 要

皆さまには、日頃より、当社事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、6月27日開催の第55回定時株主総会後の取締役会におきまして、佐伯 博に代わり、私が代表取締役社長に就任いたしました。令和3年に立山黒部アルペンルートが全線開業50周年という大きな節目を迎え、観光業界、地域全体が「立山黒部」に期待する中、今一度創業の原点に立ち帰り、社業の発展に全力を尽くす所存でございますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

さて、当期のわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善が続き、緩やかな回復基調で推移しましたが、その一方で、米国の通商政策による貿易摩擦の激化懸念を始めとする世界経済の不確実性の影響もあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

観光業界においては、西日本豪雨や北海道胆振東部地震等の甚大な自然災害や、台風21号による高潮被害で関西国際空港が閉鎖される等のマイナス要因が多かったものの、訪日旅行では、東南アジアを中心に好調を持続し、平成30年の訪日旅客総数が史上初めて3千万人の大台を超え、過去最高の3,119万人に達しました。

このような中、当期の立山黒部アルペンルートは、前期同様、4月10日に富山側の立山～弥陀ヶ原間の営業を再開し、4月15日には立山～信濃大町間が全線で営業再開となり、11月30日まで営業いたしました。

営業の推移を概観いたしますと、「立山・雪の大谷ウォーク」人気の継続により、4月の入り込み客数が過去最高の123千人を記録する等、順調な滑り出しとなったものの、続く5月は、荒天により大型連休中の5月4日に立山高原バスが終日運休し、その影響で前期を下回る結果となりました。6月以降は、北陸地方での観測史上3番目に早い梅雨明けやその後の好天、猛暑等が後押しとなり、好調に推移し、9月の度重なる大型台風の接近や初冬期の少雪も軽微な影響に留まりました。

この結果、当期の入り込み人員は、合計981千人（前期比106%、52千人増）となり、また、入り込み方面別では、富山入り込みが459千人（前期比99%）、大町入り込みが522千人（前期比112%）となりました。

旅客の内訳では、国内旅客においては、関電トンネルトロリーバスのラストイヤーを謳っ

た各種施策が奏効したこともあり、大町入り込み客数が大きく前期を上回り、長らく低落傾向にあった団体客も、6年ぶりに上昇に転じました。この結果、国内旅客全体の入り込み人員が715千人（前期比107%、49千人増）となりました。

一方、訪日旅客においては、主要国である台湾、韓国が前期並みとなりましたが、特にインドネシアやシンガポールからの個人客が順調に伸び、訪日旅客全体では、過去最高の266千人（前期比101%、3千人増）となりました。

以上のとおり、当期は黒字決算を確保することができましたが、健全な財務体質保持と今後の設備投資に備え、内部留保の充実に努めることとし、株主の皆様には誠に申し訳ございませんが、配当につきましては、無配とさせていただきます。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。



令和元年度の営業概況につきましては、5月末日現在、昨年度並に推移いたします。夏から秋にかけても多くのお客様にお越しいただけるよう、引き続き販売・宣伝活動に注力してまいりたいと存じます。

当社では、立山黒部の将来ビジョンとして、「世界に類を見ない山岳リゾートエリア」実現を掲げ、平成30年度から5ヶ年に亘る中期経営計画を策定いたしました。その重点戦略案件のひとつである「次世代乗り物への更新」を進めるべく、昭和29年に営業を開始した立山ケーブルカーに代わる乗り物として、立山駅～美女平間にロープウェイを新設するための調査を、今年度より始めることとなりました。富山県をはじめ関係機関との連携を図りながら、まずは計画の具体化に努めてまいります。その早期実現のためにも、アルペンルートの認知度および立山黒部のブランド価値を高め、再び入り込み人員100万人を達成できるよう、きめ細かな情報発信や着地型観光促進を始めとした様々な施策に取り組んでまいります。

冒頭に申しました通り、立山黒部アルペンルートは、令和3年に全線開業50周年を迎えますが、これからも佐伯宗義初代社長を始めとする幾多の先人の方々の、アルペンルート創業にかけた理想と理念を受け継ぎ、次の50年も多くの皆様に支持されるよう、積極的な誘客促進と、安全かつ満足度の高い受け入れ態勢の構築に全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

決算概要 (記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。)

【単体】

損益概要

(単位:百万円)

	平成30年度	前期差	平成29年度
営 業 収 益	4,551	116	4,435
営 業 費	4,509	87	4,421
営 業 利 益	42	29	14
経 常 利 益	60	25	35
当 期 純 利 益	38	27	12

資産・負債概要

(単位:百万円)

	平成30年度	前期差	平成29年度
資産の部	11,304	△203	11,507
流動資産	1,580	△58	1,637
固定資産	9,724	△145	9,869
負債の部	4,371	△234	4,605
流動負債	1,081	△137	1,217
固定負債	3,290	△98	3,387
純 資 産 の 部	6,933	31	6,901

当期の営業収益は、45億51百万円（前期比103%）となりました。一方、営業費は、経営全般にわたる効率化に努めましたが、人件費および燃料代、修繕費等の物件経費が増加し、45億9百万円（前期比102%）となり、営業利益は、42百万円となりました。これに、営業外収益52百万円、営業外費用35百万円を加減した経常利益は60百万円となり、さらに特別損益、および法人税等ならびに税効果会計による法人税等調整額を加減した結果、38百万円の当期純利益を計上することとなりました。

詳細の情報はホームページにてご確認ください。

立山黒部貫光株式会社ホームページ <https://tkk.alpen-route.co.jp>

【連結】連結子会社：立山貫光ターミナル㈱、立山黒部サービス㈱

損益概要

(単位:百万円)

	平成30年度	前期差	平成29年度
営 業 収 益	7,274	274	7,001
営 業 費	7,220	261	6,959
営 業 利 益	54	13	41
経 常 利 益	73	8	65
親会社株主に帰属する当期純利益	58	31	27

資産・負債概要

(単位:百万円)

	平成30年度	前期差	平成29年度
資産の部	12,580	△260	12,840
流動資産	2,349	△122	2,471
固定資産	10,230	△138	10,368
負債の部	5,268	△278	5,546
流動負債	1,320	△124	1,443
固定負債	3,948	△155	4,103
純 資 産 の 部	7,311	18	7,293

連結子会社の損益概要

(単位:百万円)

	立山貫光ターミナル㈱	立山黒部サービス㈱
営 業 収 益	2,921	286
営 業 費	2,928	285
営業利益 (△は損失)	△7	1
経 常 利 益	1	2
当期純利益 (△は損失)	△110	1



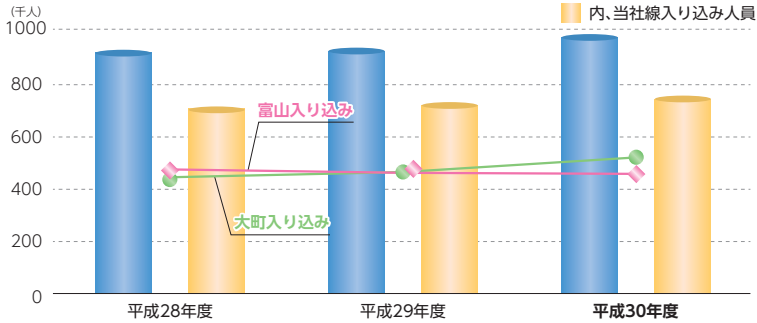
※立山貫光ターミナル㈱は、ホテル立山、弥陀ヶ原ホテル、宇奈月国際ホテルを経営しております。

※立山黒部サービス㈱は本体事業を補完し、食品加工、手荷物回送等の事業を行っております。

営業概況

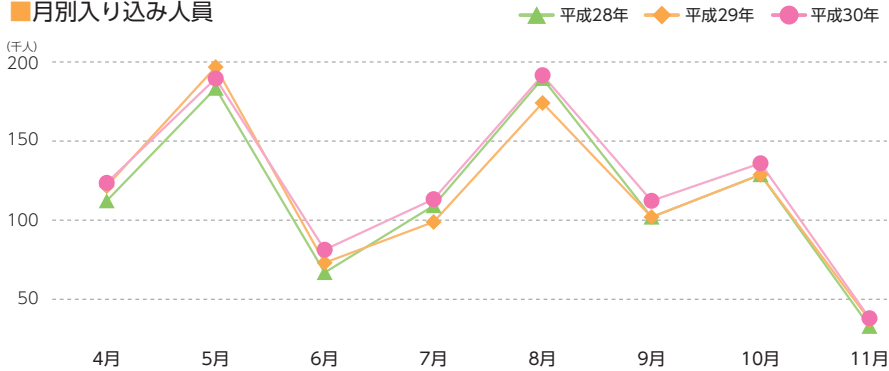
平成30年度の入り込み人員は、98万1千人（前期比106%、52千人増）で、内訳では、富山入り込みが45万9千人（前期比99%）、大町入り込みが52万2千人（前期比112%）となりました。主な営業成績は、下記のとおりです。

入り込み人員



	平成28年度	平成29年度	平成30年度
富山入り込み	476	463	459
大町入り込み	446	466	522
入り込み人員合計	922	929	981
内、当社線入り込み人員	708	720	745

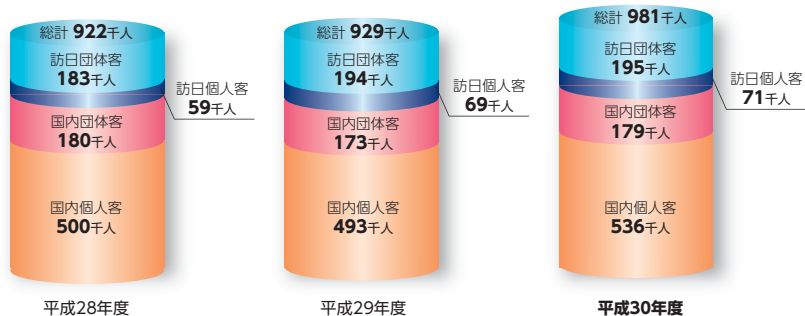
月別入り込み人員



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	総計
平成28年	112	181	68	109	187	102	128	35	922
平成29年	121	194	74	99	172	102	128	39	929
平成30年	123	187	82	113	189	112	135	40	981

訪日客は、国や富山県などの広域連携事業によるＰＲ活動と、営業活動の強化が奏功し、過去最高の26万6千人となりました。

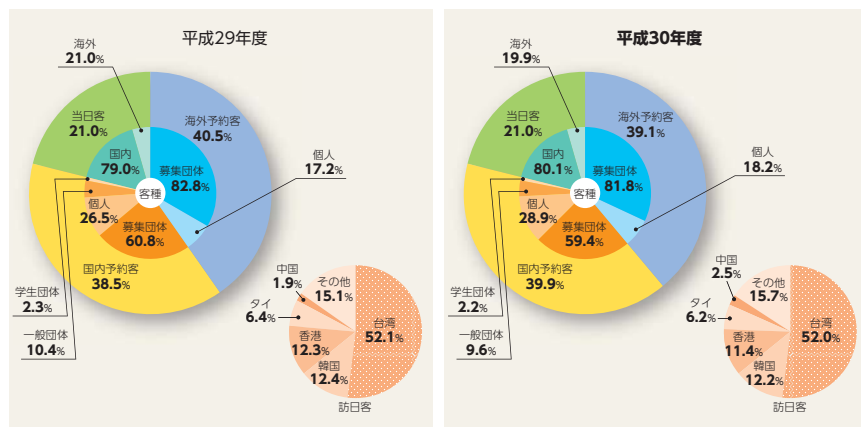
■客種別入り込み人員



(单位:千人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
入り込み人員合計	922	929	981
訪日団体客	183	194	195
訪日個人客	59	69	71
国内団体客	180	173	179
国内個人客	500	493	536

■地域別客種別シェア ※室堂～黒部湖間利用人員より算出



トピックス

立山トンネルトロリーバスが国内唯一のトロリーバスに

本年より関電トンネル電気バスの運行開始に伴い、当社の立山トンネルトロリーバスが国内唯一のトロリーバスになりました。

1996（平成8）年に8台が導入され、室堂（2,450m）～大観峰（2,316m）区間3.7kmを所要時間10分で運行しています。トロリーバスはバスと呼ばれていますが、日本の法令では「無軌条電車」として鉄道に分類されています。今後、国内唯一となった貴重な乗り物を国内外に積極的に情報発信し、誘客に繋げてまいります。



立山直下を走行する
立山トンネルトロリーバス

立山黒部アルペンルート職員の制服をリニューアル

今春、立山黒部アルペンルート職員の制服を10年ぶりにリニューアルいたしました。このたびのリニューアルでは、国際山岳観光地としての一体感を高めようと、初めて、関西電力グループと統一のものとし、また、ソフトで親しみやすいイメージを醸成するため、爽やかでスタイリッシュなデザインを採用いたしました。統一デザインながら、当社は青色、関西電力グループは赤色を基調としております。イメージを一新して、お客様をお迎えしております。



リニューアルした職員の制服

立山ならではの貴重な体験ができる 『雪の祭典』として新たな幕開け 2019立山黒部・雪の大谷フェスティバル

大人気イベント「立山・雪の大谷ウォーク」を今年から「立山黒部・雪の大谷フェスティバル」としてリニューアルし、開催（4/15～6/22）いたしました。イベントの目玉である、雪の壁の間を歩く「雪の大谷ウォーク」を始め、室堂エリアでは、スノーシェルター「NINJA」、スノーマウンテン「FUJIYAMA」、大観峰駅エリアでは、巨大なかまくら「雪のポケット」、や「雪のトンネル」等の多彩なアクティビティにより、この時期の立山黒部でしか体感できない特別感と楽しさを演出し、お客様満足度の向上とリピーターの創生に努めました。



雪のトンネル



スノーマウンテン

会社概要

(平成31年3月末現在)

- 所在地 〒930-8558 富山県富山市桜町1丁目1番36号
- 電話 (076) 441-3331
- 設立日 昭和39年12月25日
- 事業目的 自動車運送事業、鉄道・軌道及び索道事業、ホテル・旅館事業、
売店・食堂その他飲食物販売業、旅行業法に基づく旅行業
- 資本金 41億6千万円
- 発行済株式総数 8,973,183株（自己株式318,485株を除く）
- 株主数 1,426名
- 役員（令和元年6月27日現在）

代表取締役社長	見角 要
専務取締役	中川 修（経営企画室長）
常務取締役	高江 均（技術環境部長）
常務取締役	中村 直幸（経理部長）
社外取締役	石井 隆一
社外取締役	永原 功
社外取締役	庵 栄伸
社外取締役	岡田 達志
社外取締役	辻川 徹
社外取締役	森 雅志
社外取締役	牛越 徹
社外取締役	貞松 孝洋
取締役	石野 一美（立山貫光ターミナル(株)常務取締役ホテル営業部長）
取締役	秋元 一秀（総務部長）
取締役	大谷 真一（運輸事業部長兼物販事業部長）
取締役	川高 健裕（立山貫光ターミナル(株)取締役宇奈月国際ホテル支配人）
常勤監査役	川嶋 芳明
社外監査役	舟橋 貴之
社外監査役	中田 邦彦

株主関連

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 6月
- 基準日
 - 株主優待券 2月末日
 - 定時株主総会の議決権 3月31日
 - 期末配当金 3月31日
- 公告掲載新聞 北日本新聞
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人
 - 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号
 - 日本証券代行株式会社
- 同取次場所
 - 日本証券代行株式会社 支店
 - 三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
- お問合せ・送付先
 - 〒168-8620
 - 東京都杉並区和泉2-8-4
 - 日本証券代行株式会社 代理人部
 - 0120-707-843（フリーダイヤル）

単元未満株式買取・買増制度のご案内

当社では、単元未満株式（100株未満）をご所有の株主の皆様のご便宜を図るため、単元未満株式の買取および買増制度を行っております。

<単元未満株式の買取り>

株主様がお持ちになっている単元未満株式を、当社が買い取らせていただきます。

<単元未満株式の買増し>

株主様がお持ちになっている単元未満株式と合わせて1単元（100株）となる株式を当社が株主様に売却いたします。

お手続きの詳細につきましては、上記**日本証券代行(株) 代理人部**までお問い合わせください。

株主優待制度

ご所有株式数	優待乗車券・乗車証			宿泊ご優待割引券	
	種 類	通用区間	発行枚数	ホテル立山 弥陀ヶ原ホテル	宇奈月国際ホテル
100株～150株未満	優待乗車券 (片 道)	立 山～室 堂	2枚	2枚	2枚
150株～300株未満	優待乗車券 (片 道)	立 山～室 堂	3枚	2枚	2枚
300株～400株未満	優待乗車券 (片 道)	立 山～室 堂 立 山～黒部湖	1枚 2枚	2枚	2枚
400株～600株未満	優待乗車券 (片 道)	立 山～黒部湖	4枚	2枚	2枚
600株～800株未満	優待乗車券 (片 道)	立 山～黒部湖	6枚	2枚	2枚
800株～1,000株未満	優待乗車券 (片 道)	立 山～黒部湖	8枚	2枚	2枚
1,000株～2,000株未満	優待乗車券 (片 道)	立 山～黒部湖	10枚	4枚	4枚
2,000株～3,000株未満	優待乗車券 (片 道)	立 山～黒部湖	20枚	4枚	4枚
3,000株以上	優待乗車券 (片 道) 優待乗車証 (記名式)	立 山～黒部湖	30枚 1枚	6枚	6枚

- 優待有効期間：各年度 営業期間中
- 各券のご利用方法につきましては、各券面記載事項をご覧ください。

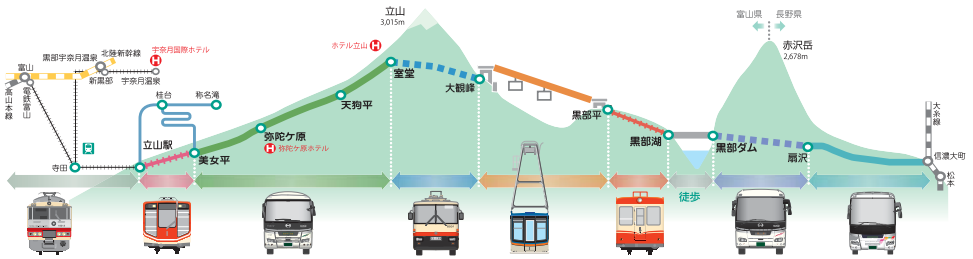
～旧「立山開発鉄道株式会社」株券をお持ちの株主様～

当社では、合併により消滅した立山開発鉄道株式会社の株券と、当社株券との引換えを行っております。まだ引換えのお済みでない株主様は、新株券との引換えをお願い申し上げます。

なお、引換えのお手続きにつきましては、左記**日本証券代行㈱ 代理人部**までお問い合わせください。



立山黒部アルペンルートのご案内



乗物	電車 電鉄富山～立山	立山 ケーブルカー	立山高原 バス	立山トンネル トロリーバス	立山 ロープウェイ	黒部 ケーブルカー	(徒歩)	関電トンネル 電気バス	路線バス
キロ (時間)	31.3km (65分)	1.3km (7分)	23km (50分)	3.7km (10分)	1.7km (7分)	0.8km (5分)	0.8km	6.1km (16分)	18km (40分)
運賃	片道	1,200円	720円	1,710円	2,160円	1,300円	860円	1,540円	1,360円
	往復	2,400円	1,290円	3,020円	3,240円	1,940円	1,300円	2,570円	2,500円

営業推進部

〒930-0849 富山県富山市稲荷園町2-3-4
国内営業センター 海外営業センター WEB・PRセンター
☎(076) 432-2819 FAX (076) 442-3431

東日本営業所

〒102-0081 東京都千代田区四番町4-9 東越伯鷹ビル1階
☎(03) 3262-7028 FAX (03) 3265-5285

東海営業所

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-14-15 スギビル5階
☎(052) 241-2268 FAX (052) 241-2275

西日本営業所

〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1-9-15 近畿富山会館4階
☎(06) 6445-0359 FAX (06) 6445-0398

大町営業所

〒398-0002 長野県大町市大町3-2-2
☎(0261) 22-0198 FAX (0261) 23-2967

グループのホテル



ホテル立山

〒930-1414 富山県中新川郡立山町芦峰寺室堂
☎(076) 463-3345 FAX (076) 463-3348



弥陀ヶ原ホテル

〒930-1412 富山県中新川郡立山町芦峰寺弥陀ヶ原
☎(076) 442-2222 FAX (076) 442-2242



宇奈月国際ホテル

〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉7-26
☎(0765) 62-1236 FAX (0765) 62-1808

● 立山黒部アルペンルートオフィシャルサイト
<https://www.alpen-route.com>

(編集・発行) 立山黒部貫光株式会社

〒930-8558 富山県富山市桜町1-1-36
☎(076) 441-3331 (代表) FAX (076) 433-1185

(自然環境保護のため、環境にやさしい「水なし印刷」
「植物性大豆油インキ」を使用しております。)

